

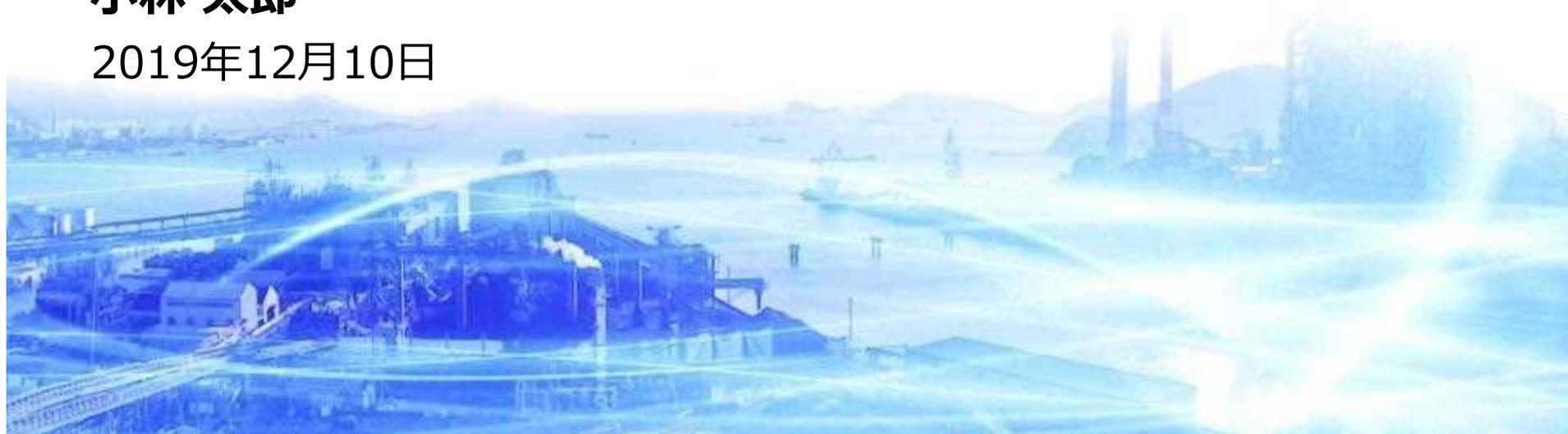
個人投資家様向け会社説明会

株式会社 **トクヤマ** (証券コード：4043)

経営企画本部 広報・IRグループリーダー

小林 太郎

2019年12月10日



CONTENTS

— 説明内容 —

1. 概要
2. 主要拠点
3. 株価及び出来高推移
4. 暮らしの中のトクヤマ
5. 身近にある製品
6. 沿革
7. 競争力の源泉
～徳山製造所
8. セメント工場活用による
循環型社会への貢献
9. 業績推移
10. 事業ポートフォリオ
11. 成長事業の取り組み
12. CO₂排出量削減の
取り組み
13. 配当について

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

1. 概要

創立

1918年2月16日（旧社名：徳山曹達）

所在地

東京本部

東京都千代田区外神田1-7-5
フロントプレイス秋葉原

徳山製造所（本店所在地）

山口県周南市御影町1-1

代表者

よこた ひろし
横田 浩

資本金

100億円 （2019年3月末現在）

従業員数

5,471名
（2019年3月末現在、連結ベース）

連結売上高

3,246億円（2018年度）

証券コード

4043（化学）
（2012年9月より日経平均銘柄）
（2019年9月よりJPX日経400銘柄）

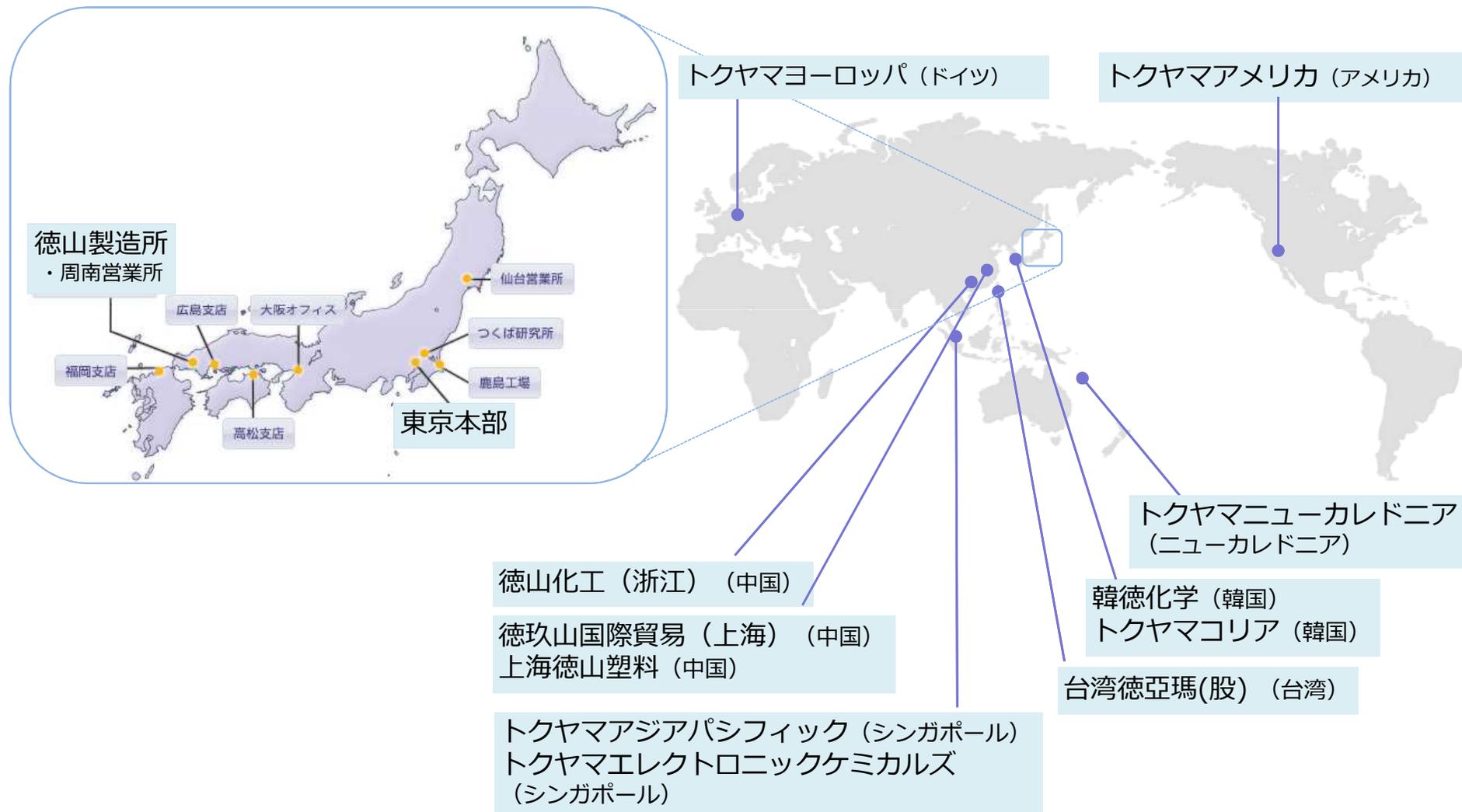
株式売買単位

100株



▲横田社長。徳山製造所にて撮影

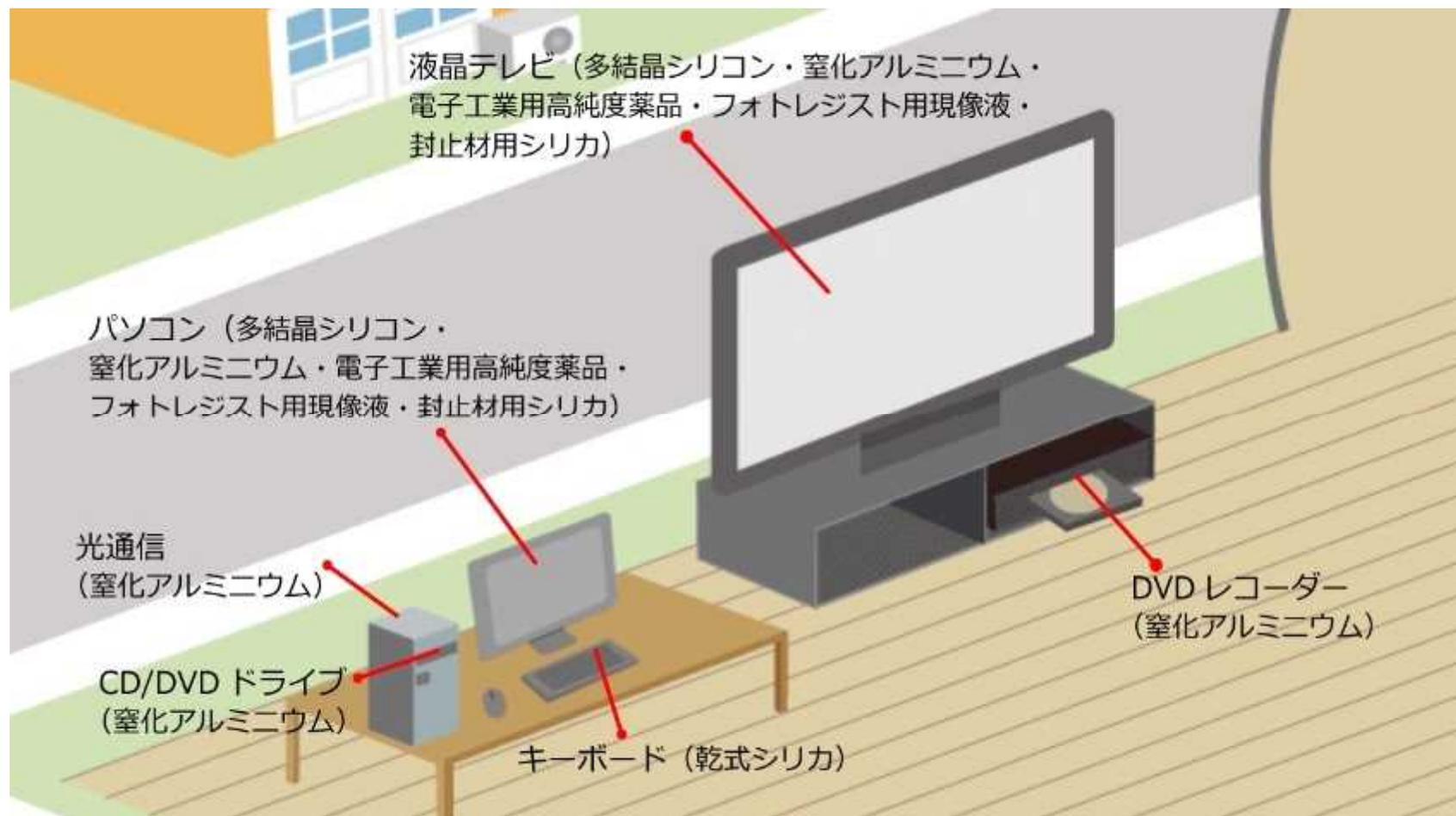
2. 主要拠点



3. 株価及び出来高推移



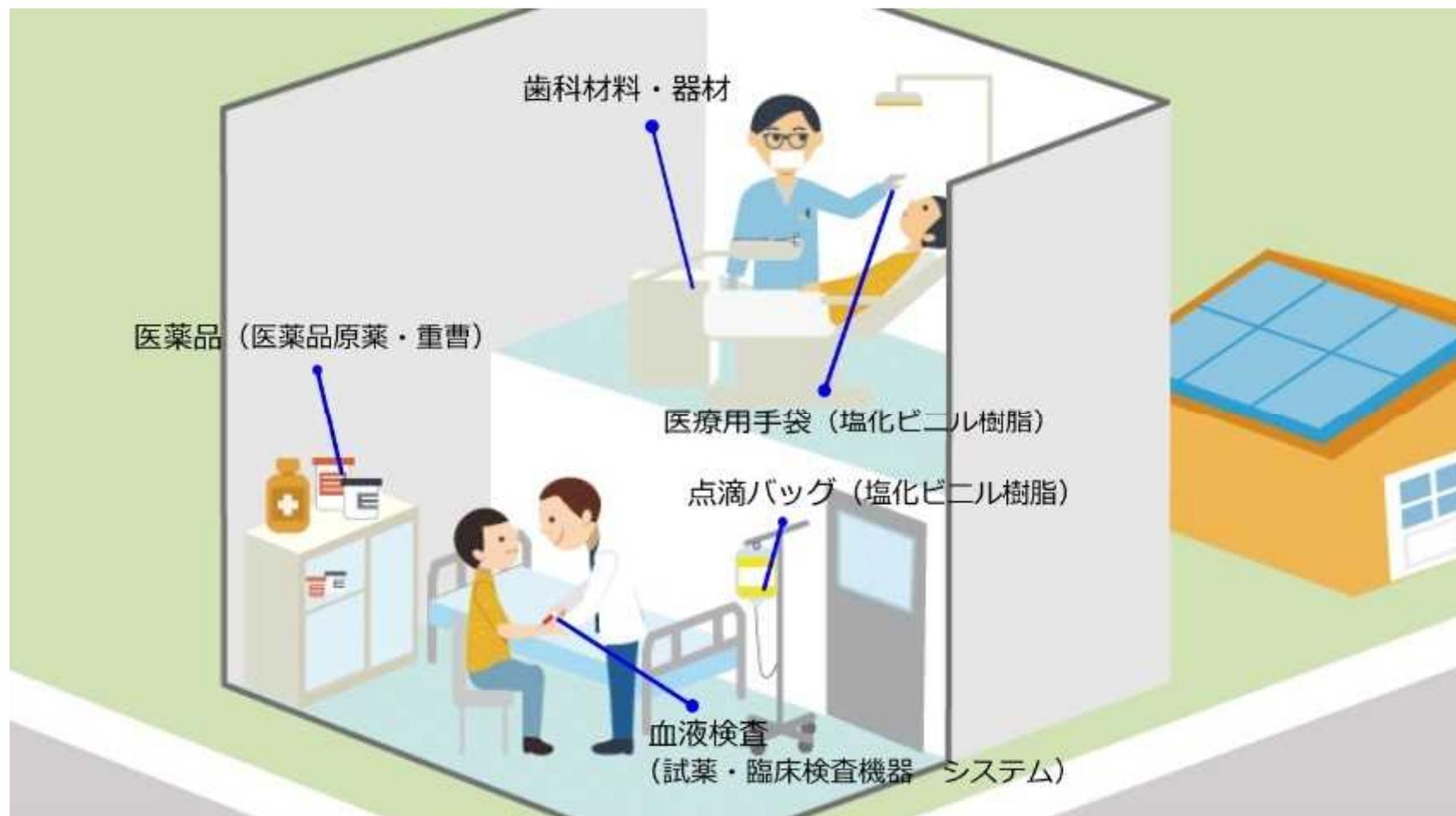
4. 暮らしの中のトクヤマ



4. 暮らしの中のトクヤマ



4. 暮らしの中のトクヤマ



5. 身近にある製品



コンビニエンスストアのサンドイッチ・おにぎり等の包装用フィルム
(サン・トックス(株)「サントックス-OP」)



紙おむつ用バックシート
(微多孔質フィルム「ポーラム®」)



歯科充填用コンポジットレジン
(株)トクヤマデンタル「オムニクロマ」)

6. 沿革



創立者 岩井勝次郎

岩井商店（現 双日）が設立した代表的な会社（最勝会）
日鉄日新製鋼、ダイセル、富士フイルム、トクヤマ、
関西ペイント、日本橋梁、トーア紡



スペシャリティー・加工型事業
(多結晶シリコン他)

石油化学 (塩化ビニル樹脂他)

ソーダ専業(ソーダ灰)

無機総合化学 (セメント、苛性ソーダ他)

社名

ソーダ
日本曹達工業

ソーダ
徳山曹達

トクヤマ

年

1918

1920

1930

1936

1940

1950

1960

1970

1980

1990

1994

2000

2010

2019

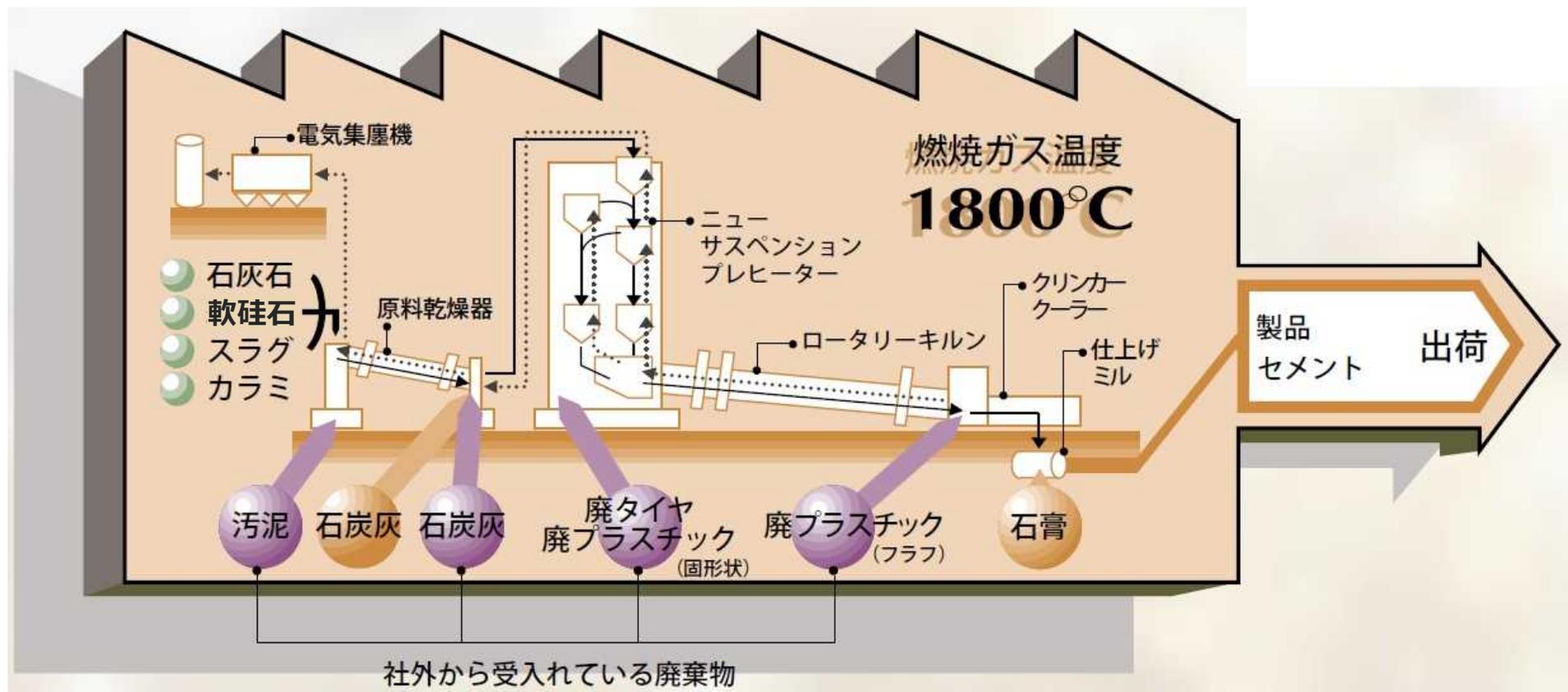
7. 競争力の源泉～徳山製造所

無機・有機化学、セメント、電子材料などの工場が複合的に集積し、原料・製品・副産物・廃棄物を相互に有効活用できるインテグレーションを形成



8. セメント工場活用による循環型社会への貢献

セメント製造の工程で廃棄物を原料の一部として受け入れて利用することにより、循環型社会の実現に貢献しています。



廃棄物・副産物 187万トン

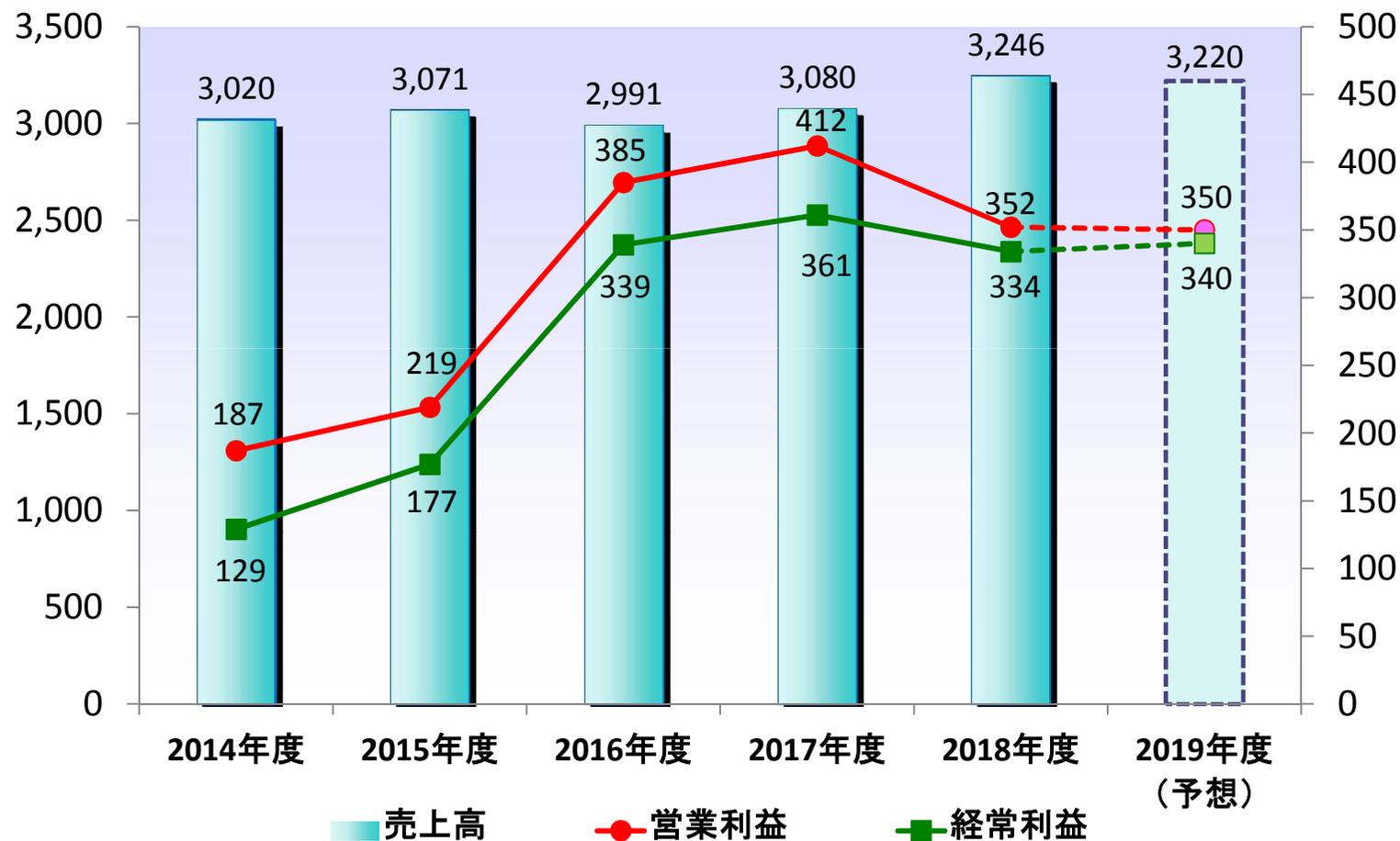
(社内：28.6万トン／社外：158.6万トン) ※2018年度数値

9. 業績推移

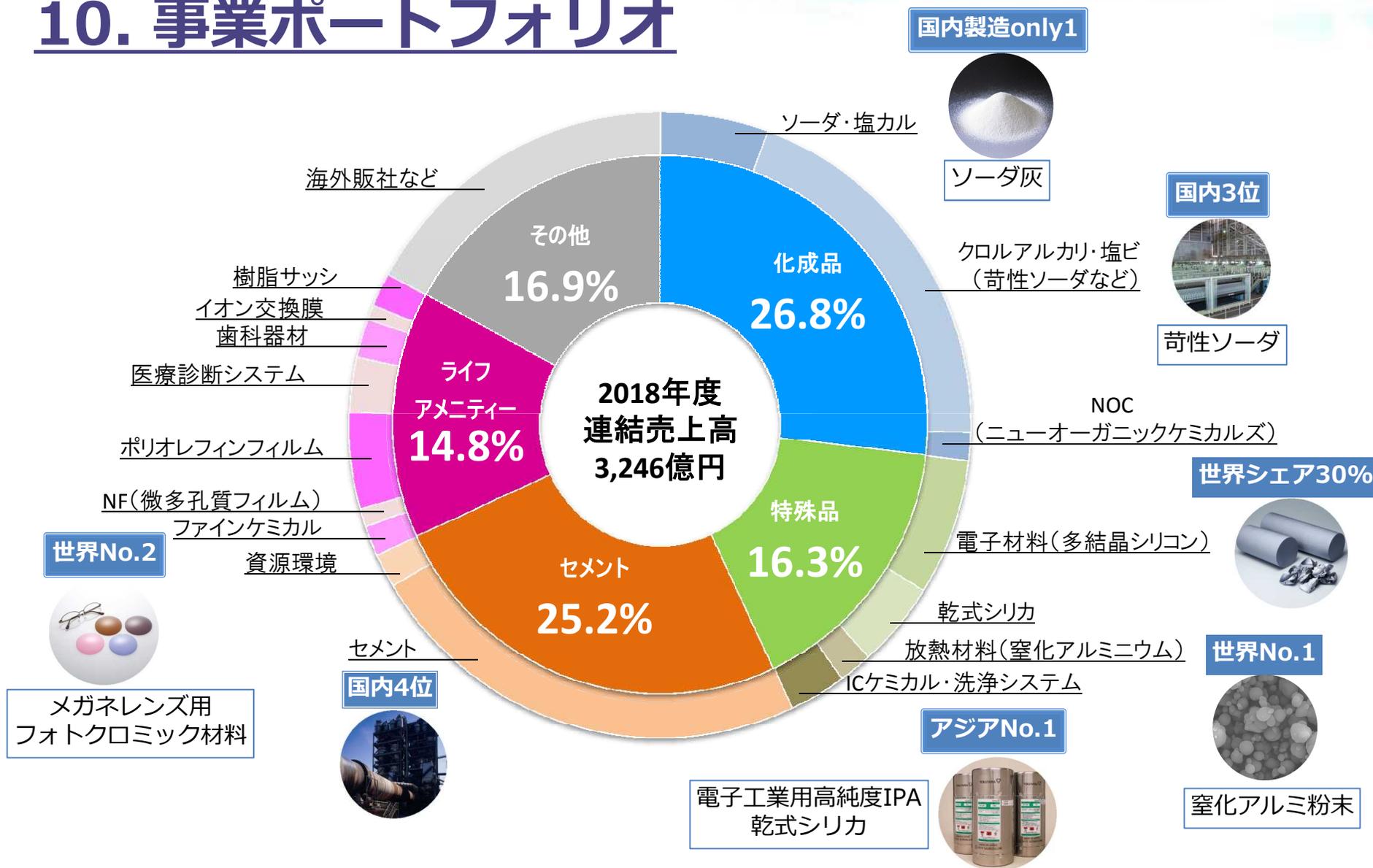
連 結

売上高 (億円)

利益 (億円)

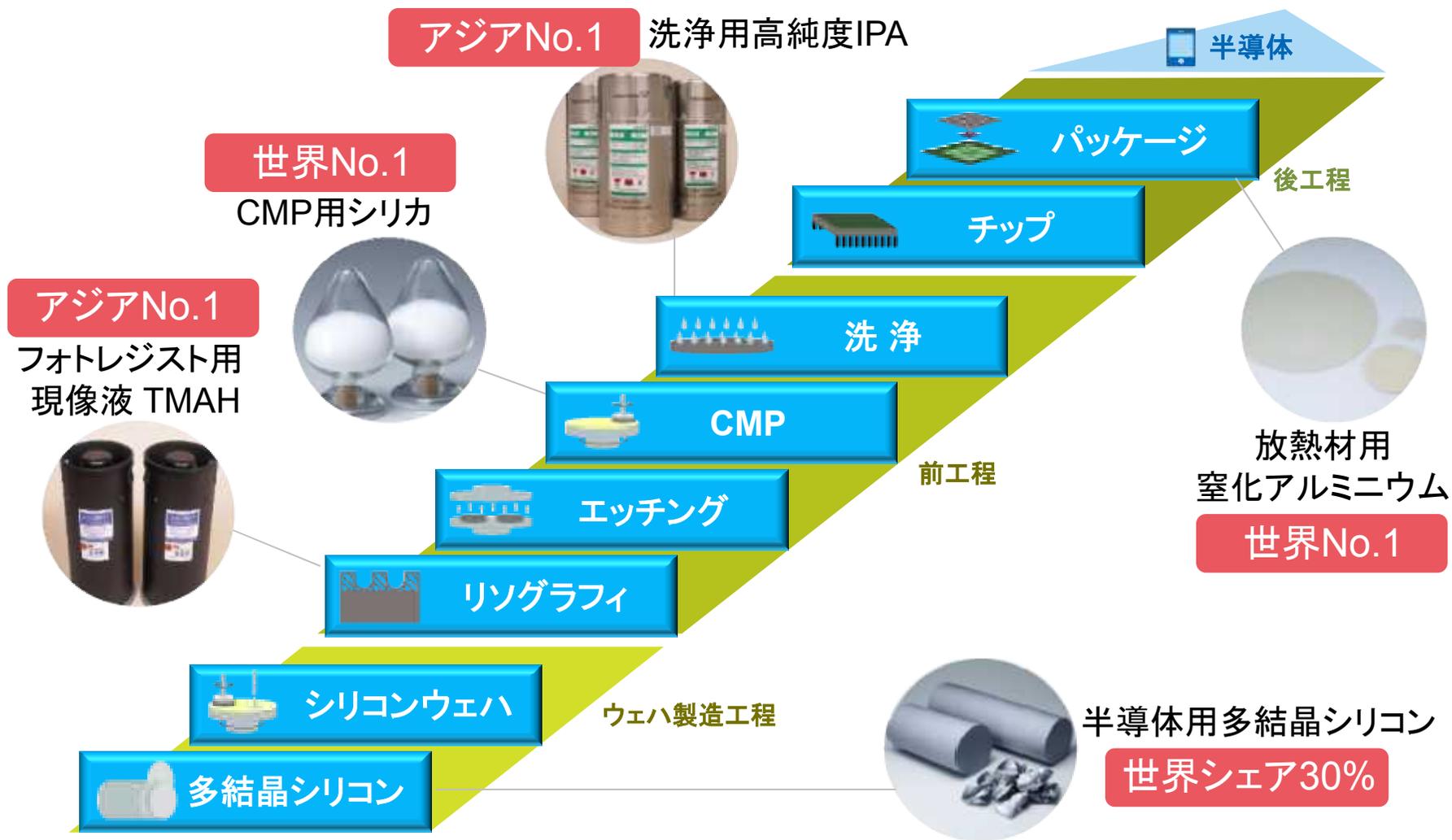


10. 事業ポートフォリオ



11. 成長事業の取り組み

ICT関連製品



11. 成長事業の取り組み

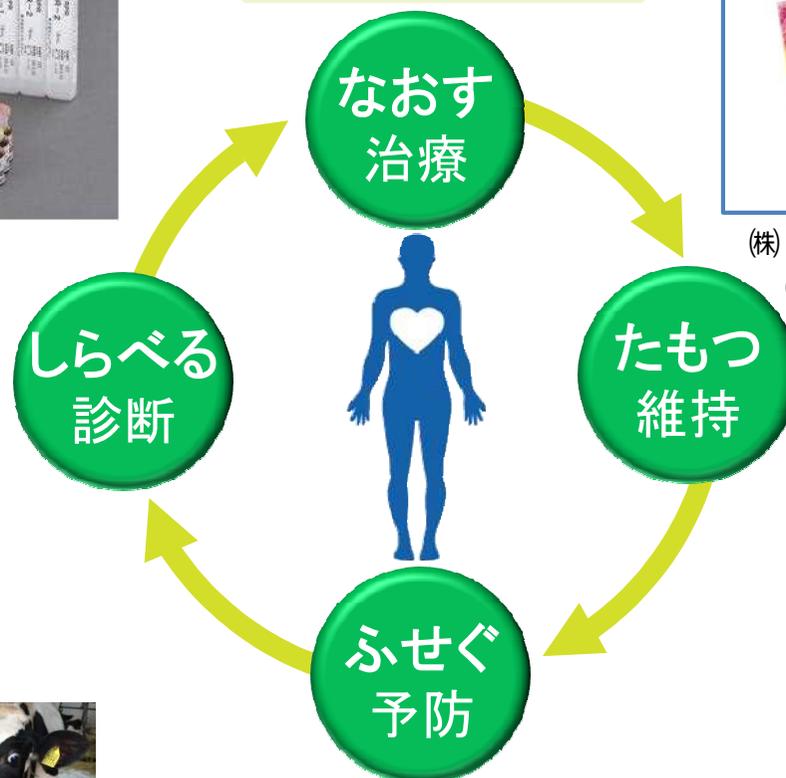
ヘルスケア関連製品



- 医療診断システム
- 臨床検査試薬
- 動物医療周辺材料



- 歯科材料
- 医薬品原薬・中間体



(株)トクヤマデンタル「オムニクロマ」
(歯科充填用コンポジットレジン)

- OPPフィルム(食品包装材)
- 微多孔質フィルム(紙おむつ材料)



- フォトクロミック材料
- 乳牛の乳頭保護材
- サプリメント

12. CO₂排出量削減の取り組み

- 地球温暖化防止のため、温室効果ガス排出量削減を目指し、エネルギー起源のCO₂排出の削減目標を設定
 - ⇒ 2030年度にBAU* (2013年度基準)比で15%削減
- CO₂排出量削減推進のための組織を立ち上げ
- 以下の課題解決を中心にCO₂排出量削減を推進
 - 新規技術開発
 - CO₂の回収・利活用
 - 再生可能エネルギー導入
 - バイオマス混焼
 - エネルギーミックス
 - 徳山製造所のエネルギー効率の最適化

* BAU (Business as Usual): 削減対策をしない場合の排出量

13. 配当について

剰余金の配当は、3月末日及び9月末日の最終の株主名簿に記載された株主の方を対象に実施しています。

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中間配当金（円）	15.0	0.0	0.0	0.0	10.0	25.0	35.0
期末配当金（円）	15.0	0.0	0.0	0.0	20.0	25.0	(35.0)
配当性向（%）	20.4	—	—	—	11.5	10.1	(18.7)

- (注1) 2017年10月1日付で普通株式5株を1株に併合いたしました。金額の比較のため、上表では2013年度の配当金から併合を反映した金額としています。
- (注2) 2014～2016年度の配当性向は、当期純損失であるため記載しておりません。
- (注3) () 内の数値は、予想値です。
- (注4) 2017年期末配当金には100周年記念配10円を含みます。

Chemistry with a heart
TOKUYAMA 



業績予想 (2019年度)

連結

※2019年10月31日公表

売上高

3,220 億円

前期比 △1%

営業利益

350 億円

前期比 △1%

親会社株主に帰属する
当期純利益

260 億円

前期比 △24%

売上高営業利益率

10.9 %

1株当たり当期純利益 (EPS)

374.35 円

Chemistry with a heart
TOKUYAMA 

